現金

觀　魚

昭和四十五年二月十日発行

発行者　觀魚刊行会
愛知県名古屋市中村区
日吉町三二加藤実方

製版印刷　株式会社同美印刷
大日本法令印刷株式会社
株式会社平文社

製本　協和製本株式会社

製函　加藤製函印刷株式会社

© 伊藤觀魚。觀魚刊行会　1970

はじめに

伊藤觀魚は、明治十年名古屋に生れ、河東碧梧桐の高弟として知られるとともに、明治四十五年碧梧桐・中村不折らと龍眠會をおこすなど書の世界においても独自の位置をしめている。觀魚は名古屋第一の料亭近直（きんなお）の二男としてめぐまれた生活をおくったが、昭和十九年戦災によって万巻の書籍といくたの美術品を失い、以後清貧のくらしがつづき、昭和四十四年二月十一日名古屋市中村区日吉町の仮寓において九十二歳の生涯を終えた。

生前たびたび句集刊行の機もあったが、堅く辞せられ、最晩年には、だすとすれば碧梧桐の「蚊帳釣草」の再刊をという意向であった。本書はそれとともに、戦前の作品に愛着と自信のあった觀魚の遺志を重んじ、句は碧梧桐選のものにかぎり、書・画も戦前の作品を中心にえらび、伊藤觀魚の遺作集として刊行するものである。

凡　例

一、『蚊帳釣草』は原著のおもむきを生かすため、新らしく活字で組まず、写真製版によって、原著のまま印刷した。原著には、本書に収録した以外に、表紙、表紙カバー、奥付頁のあとに広告頁があるが、これは割愛した。

一、觀魚翁句鈔は、漢字は旧書体、かなは旧かなづかいのままとした。また、あて字を使っている場合はそのままとした。

一、『物部隨想日記』については、中扉（タイトルの頁）のうらの凡例をみられたい。

一、『觀魚放談』『伊藤觀魚―名古屋の書家』『伊藤觀魚』『續春夏秋冬・六朝書』は、それぞれ発表されたものを原稿とした。したがって漢字の書体やかなづかいもそのままとした。

一、図版頁の書画は、大体年代順にならべた。表装のしてあるものは、原色版の一頁目を除き、表装の内のり一杯できり、表装はすべてトリミングした。なお「日課神佛名」だけは長いので右の方をきって収録した。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

蚊帳釣草

蚊帳釣草

碧梧桐著

俳書堂

凡例

一、明治三十八年二月より同三十九年六月に至る一年間餘日本新聞に掲載せし雜筆を纂めて今一册子となす

一、附錄として添へたる四紀行は蚊帳つり草掲載當時と年次を同じうするものにかゝる以て聊か當時を忍ぶ料とす

一、全國漫遊の旅行發程前匆忙としてこれが校合を了す取捨訂正の遑なきを遺憾とす讀者之を諒せよ

一、本書の體裁は總て俳書堂主人の意匠に成る

明治三十九年七月

碧梧桐識

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

蚊帳つり草目次

一大家摸範俳句集……一
一徹書記の事……五
一相似の句……一三
一茶山、葉より……二一
一蒔繪師春正……二三
一蕉風、明治一萬集……二六
一句評……二八
一菊川宿……三〇
一矢數の事……三二

一虚子の句……三六
一妻木を讀む其一……四一
一同　其二……四四
一少年の句……四九
一無題……五二
一詞の轉用……五三
一入江の御所……五四
一曉臺の書翰……五七
一越人の事……六一
一投書家一覽……八六

一俳三昧……九二
一客觀……一〇九
一唐伯虎の畫……一一二
一俳諧美學……一一四
一俳諧馬の糞……一一六
一六月……一一七
一無題……一二〇
一日本新聞の選句に就いて……一二五

附錄

一吉野紀行……一
一嵯峨半日……一八
一壛原行……二七
一二泊紀行……三三

蚊帳釣草

河東碧梧桐著

大家模範俳句集

○鳴雪、鼠骨二氏の著に「大家模範俳句集」といふがある。古今の模範になる句を集めたのであらうけれども「大家模範俳句集」といふ名前は異樣に聞える。大家模範と言ひながら、著者の句のあるのも變に思はれる。

○苟くも模範とするが爲めには句の精撰をせなければならぬといふ條件もあつたであらうが、句數の少ないのは驚く許りで、元祿より今日に至るまで、春夏の二季で模範とする

句が僅にこの小冊子二百餘頁に過ぎぬ。

○精選してあるので句は多く面白いやうてあるけれども、句數の少ないのに比して

春雨に半ば濡れたる榎かな

竹の中風も朧となりにけり

松山や風の下より雉の聲

春の山夜著の袖よりよく見ゆる

峰入や思へば深き吉野山

等の句が往々散見する。これらの句は天明以後文化文政に近い調子で何處かに「細み」と稱する俗な趣きのある句でないかと危むのである。

○題の分類法にも「春田」が夏の部にあり、「麥秋」が時候の部にあるなど著者に說のあることゝしても蕪村の

うたゝねのさむれば春の日くれたり

うかふ瀨に沓ならべけり春の暮

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com